※文字の大きさは MS ゴシック ／12 ポイント以上とし、行間･文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、適宜文章中に挿入してください。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
※いずれの場合も、必ずＡ３片面１枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは５MB 以下としてください。

※事務局記入欄
№31

【様式２】

エントリー名：愛荘町立愛知川小学校

学校名：愛荘町立愛知川小学校

活動名：意欲に火をつけ、学び合う学校へ
期末テスト導入から続ける学力向上への模索

解決すべき課題：学ぶ意欲に大きな個人差が。これを埋める有効な手立てが見当たらず。

・学習意欲に差があり、それが顕著に学力差にも表れている。
・学習意欲の低い児童は家庭学習の習慣も定着しておらず、家庭との連携も不十分である。
・「学習の手引き」の発行等、学力向上策を講じてきたが、有効な手立てとはならず、学ぶ意欲を高め、学力向上につなげる全校的な取組の検討が急務。

目標・方針：学力差は学ぶ意欲の差ととらえ、その差を埋める家庭と連携した共同実践の開発

中学生（卒業生）が定期テスト前に自ら学習する姿をヒントに、学習意欲に火をつける条件を①「学ぶ目的がある」②「学ぶ時間が保障されている」③「学ぶ方法がわかる」と定義。この３つの条件を満たす取組を家庭と連携して行うことで学力向上を目指すことにした。

活動内容：「期末テスト」と「自主勉チャレンジウィーク」の取組（令和２年～現在）

☆期末テスト（３年生以上で実施）

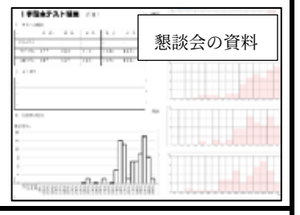
上記の学習意欲に火をつける３条件を満たす取組として、期末テストを考案。これまで毎学期末にそれぞれの学年で行ってきた各教科のまとめテストを、同じ日にまとめ、「期末テスト」として実施し、**学ぶ目的をつくる**。期末テストの１週間前を自主勉チャレンジウィークとし、原則、宿題をなくし、期末テストのための自主勉強の時間とすることで、**学ぶ時間を保障する**。また、期末テストに向けた自主勉強を誰もがスムーズに進めるために、テスト範囲のワークシートを作成し、児童に**学ぶ方法を明示する**。

☆自主勉チャレンジウィーク（３年生以上で実施、２年生は３学期から参加）

自習室の様子

期末テスト１週間前を「自主勉チャレンジウィーク」とし、自主勉ノートの使い方を共通で指導し、家庭にも学習の見守りを依頼する。また、この週間において、優秀ページ部門、ページ数部門の２部門で自主勉コンテストを行い、学校全体で学習への機運を高めながら学ぶ意欲に火をつける。期間中、優秀ページは学校ホームページで毎日紹介。昨年度２学期からは、児童の要望により、休み時間に自習室を開放している。

☆期末テストの結果を保護者懇談会の資料として活用


懇談会の資料

期末テストの結果をヒストグラムにし、自主勉チャレンジウィークの自主勉強を振り返る材料にする。また、このヒストグラムとテスト用紙を冊子にし、学期末保護者会にて学習内容の理解度や課題等を伝える資料としても活用。学習における理解の状況をより詳しく保護者に説明し、家庭との連携を強化する。

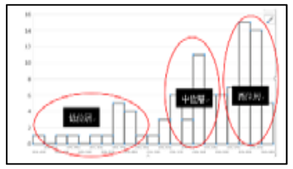
取組の過程：期末テストの実施以降、出てきた課題とその解決策

＜課題①＞学期末の期末テストは盛り上がるが、日常でも学習意欲の高まる取組はできないか
→「６年勉強教え隊」の取組（令和２年 11 月～現在）

教え隊の様子

期末テストの実施は、学期末の学校全体の学習機運を盛り上げたため、それを日常にも波及できないものかと模索。R2 夏季休業時に令和元年度 NITS 大賞を受賞した彦根市立佐和山小学校の川端清司先生に講演を依頼。「あこがれがつなぐ学校文化」の取組について学び、本校でも「あこがれ」をキーワードに縦割り班活動の日常化を検討。特活部と当時の６年生児童とが協議し、毎週金曜日の算数プリントを取り組む朝学習時に６年生が各学級に教えに行くことが決定。教える側の６年生は自分が教える学年の算数プリントを事前に取り組み、必要感をもちながら過去の学習を復習する。教えられる側の下級生は「あこがれ」の６年生から学習を教えてもらえることに喜びを感じ、意欲的に学習へ取り組む等、日常でも学習意欲が高まる取組になっている。この活動は今年度の６年生にも引き継がれている。

＜課題②＞期末テストの結果分析から、３つの学力層の存在を確認
→学力層に応じた手立てを校内研究の視点に（令和３年５月～現在）



令和２年度から始まった期末テストの結果を分析すると本校の傾向として、低位、中位、高位の３つの学力層の存在が分かってきた。そこで今年度は、算数科を窓口とした校内研究においてこの３つの学力層を意識した授業づくりに取り組んでいる。

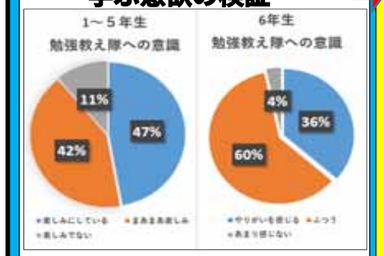
＜課題③＞依然として続く学力差→一人ひとりの理解度を見える化し、個別最適化した学習へ
→「ステップアッププリント」と「算数カルテ」の作成（令和３年 11 月から導入予定）

学力層に応じた授業づくりを取り組む中で、大きな問題になってきたのが低学力層に多く見られる「学習の積み残し」。 この問題を解決するために、今年度の夏季休業中に５分間で取り組むことのできる「ステップアッププリント」を各学年、全小単元分を全職員が分担しながら作成することに着手。プリントの内容が理解できない場合、前学年の学習内容に誘導する「さかのぼり表示」も取り入れた。このステップアッププリントの点数を 「算数カルテ」に書き込むことで積み残しや理解度を「見える化」し、**さかのぼり表示**を活用することで個別最適化した学習システムの構築を目指している。１１月から導入を予定。

活動の成果：学ぶ意欲と授業・環境づくり、両面における成果の検証

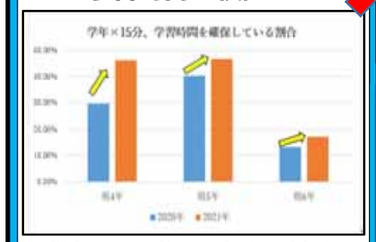
学ぶ意欲

学ぶ意欲の検証



１～５年生までは、6 年生が教えに来る学習を楽しみにし、6 年生はそれにやりがいを感じていることがわかる。

学習時間の検証



期末テストを始めたばかりの昨年度と定着した今年度で、同一学年の学習時間を経年比較。本校の目標である、「学年×15 分」の学習時間を確保する児童が増加していることがわかる。

学力向上の検証
５年生の期末テス平均点の年間変化

１学期（国語が２００点満点、算数、社会、理科が１５０点満点）

	国 語	算 数	理 科	社 会	合 計
学年平均	156．0	116．7	127．8	118．2	518．7
全国平均	157	122	123	124	526

２学期（国語が２００点満点、算数、社会、理科が１５０点満点）

	国 語	算 数	理 科	社 会	合 計
学年平均	162	103	124	125	514
全国平均	151	122	125	125	523

３学期（国語、理科が２００点満点、算数、社会が１５０点満点）

	国 語	算 数	理 科	社 会	合 計
学年平均	178	113	173	134	598
全国平均	152	120	165	125	562

令和 2 年度５年生の年間通しての期末テストの学年平均点の変化。学年平均点が全国の平均を超える教科が確実に増えている。
他の学年でも、1 学期当初よりも学年平均点が全国平均点を上回るか、差を縮める結果が出ており、学力の向上が確認できる。

教職員の声～期末テストについて～
・期末テストのおかげで、子どもたちが自ら学ぶ姿が多く見られるようになった。
・自主勉ウィークの期間、自習室に多くの子が足を向け、その意欲に驚いた。
・保護者懇談会でテスト結果を活用することで、評価の観点や理解状況を保護者に説明しやすくなった。
・「家でも自分から勉強をするようになった」と多くの保護者から好評であった。

授業･環境づくり

学力層応じた授業づくり

各学年の学力層分布が授業づくりの １ つの視点となり、学力層に応じたヒントカードの作成、意図した対話グループの編成等、様々な工夫が生まれた。

個別最適化した学習の導入

すべてのプリントが完成し、11 月の運用開始に向けて準備中。

取組の広がり
・5 年生が 3 年生へ「自主勉教え隊」、3 年生が 2 年生へ「九九教え隊」等、上学年が下学年に教え合う活動が広がっている。
・期末テスト・自主勉チャレンジウィークの取組が町内３つの小学校に広がっている